労働の優先

12　今日的状況の構造は、人類によって引き起こされた多くの闘いによって強く特徴づけられ、人間の労働によって生み出された技術的な手段が、そのなかで主要な役割を演じています。わたしたちはここで、核戦争の場合の世界大の災害のおそれをも考慮すべきで、それこそ、ほとんど想像もできないような破壊の可能性があるからです。この状況を考えてわたしたちはまず、いつも教会が教えてきた資本に対する労働の優先という原理を思い出さなくてはなりません。この原理は直接的に生産過程にかかわっています。つまり、この過程のなかで労働はいつも第一の能動因で、生産手段の総体である資本は単なる道具かあるいは道具的要因のまま残ります。この原理は、人類の歴史的経験のすべてから出てくる明白な真理です。

人類は地上を従わせることになっていると聖書の第一章で読むとき、そのことばは、見える世界に含まれているすべての資源と、人類の自由な使用にゆだねられているすべての資源とをいっていることをわたしたちは知っています。けれども、これらの資源は、労働をとおしてのみ人類に奉仕することができるのです。初めから所有の問題もまた労働と結びついています。なぜなら、人類が、自然のなかに隠れている資源を引き出して自分自身と他の人々のために奉仕させる唯一の手段は、自分の労働だからです。人間の労働によってこれらの資源が実を結ぶために、人類は地下資源や海洋資源、地上の資源や宇宙の資源など、さまざまな豊かな自然界のほんの一部に対して所有を享受しています。人間はこれらのもののすべてを自分の仕事場とすることでそれを管理します。仕事をとおして仕事のためにこれらを引き受けるのです。

同じ原理は、この過程のあいつぐ段階にもあてはまります。そのなかで、初めの関係は、

自然の資源や富と人間との関係で、これはいつでも変わりません。人類によって人類のために用いられるこれらの富を発見したり、さまざまな用途を明らかにする目的で知識を得ようとするすべての努力はわたしたちに次のことを教えてくれます。それは、経済生産の全過程をとおして人間から生じるすべてのもの、労働も生産手段の全体も、これらの手段と結びついている技術も(労働においてこれを用いる能力を意味しています)、見える世界の富や資源、人間が見いだすが創造するものではない富や資源を前提としているということです。人間は、発見されて生産過程で正しく用いられるのを待っているすでに準備された富や資源を発見するのだともいえます。人間の労働の発展のあらゆる段階で、人間は「自然」によっておくられた贈り物、いいかえれば、結局は創造主によっておくられた贈り物の主導的な役に直面します。創造の神秘が、人間の労働の初めにあります。すでにわたしの出発点として述べたこの確信は、この回勅の方向を示す筋道であり、これらの考察の最後の部分でさらに詳しく述べるつもりです。

この問題をさらに考えるとき、ときの流れのなかで資本と呼びならわされているものに対する人間の労働の優位について確信を固めさせられることでしょう。資本の概念は、人間が

活用できるものとしてある自然的な資源だけでなく、人間が自然的な資源を手に入れ、(それを、いわば人間化するといえるような)人間の必要に従って変える生産手段の総体を含んでいるのですから、これらの手段のすべてが、人間の労働の歴史的遺産であるということが直ちにいわれなければなりません。もっとも原始的なものから超現代的なものまで、人間が次第に発達させてきたあらゆる生産手段を次第に開発してきたのは人間であり、人間の経験と理性です。このようにして、地を耕すためのもっとも簡単な道具だけでなく科学と技術の適切な進歩をとおして現代のさらに複雑な道具が現れてきました。それは、機械類、工場、研究所、電子計算機などです。このように、労働に奉仕するすべてのもの、現在の技術の状態において、かつてないほど高度に完成された道具を構成するものすべては労働の結果です。

ある意味で「資本」と同じものとも考えられる生産手段の総体であるこの巨大で力強い道具は労働の結果であり、人間の労働のしるしを担ったものです。技術的な進歩の現段階において、労働の主体である人間が、この現代的な道具や生産手段の総体を利用しようと望むとき、人間は、まずこれらの道具を発明、計画し、作り、完成させた人々やそうし続けている人々の労働の結果を認識しながら取り入れなければなりません。労働の能力、つまり現代の

生産過程のなかに効果的に参加するための能力は、ますますすぐれた準備と他の何よりも適切な訓練を要求しています。明らかに、生産過程に携わるすべての人間は、たとえ彼や彼女が特別な訓練や資格が要求されないような労働だけをしているとしても、この生産過程において本当にこれを実現している主体なのです。一方、道具の総体は、たとえそれ自体どんなに完全なものであっても、人間の労働に従属する単なる道具にしかすぎません。

教会の教えがもち続ける遺産の一部であるこの真理は、労働体制の問題に関しても、また社会経済体制全体に関しても、いつも強調されなければなりません。生産過程において人間が第一であること、物に対して人間が優先することの重要さをわたしたちは強調し、重要視しなければなりません。厳密な意味で資本の概念に含まれるすべてのものは物の集合にすぎません。労働の主体としての人間、その人がどんな仕事をしていようと、この人間だけが人格的存在です。この真理は、決定的に重要な結果をもたらします。